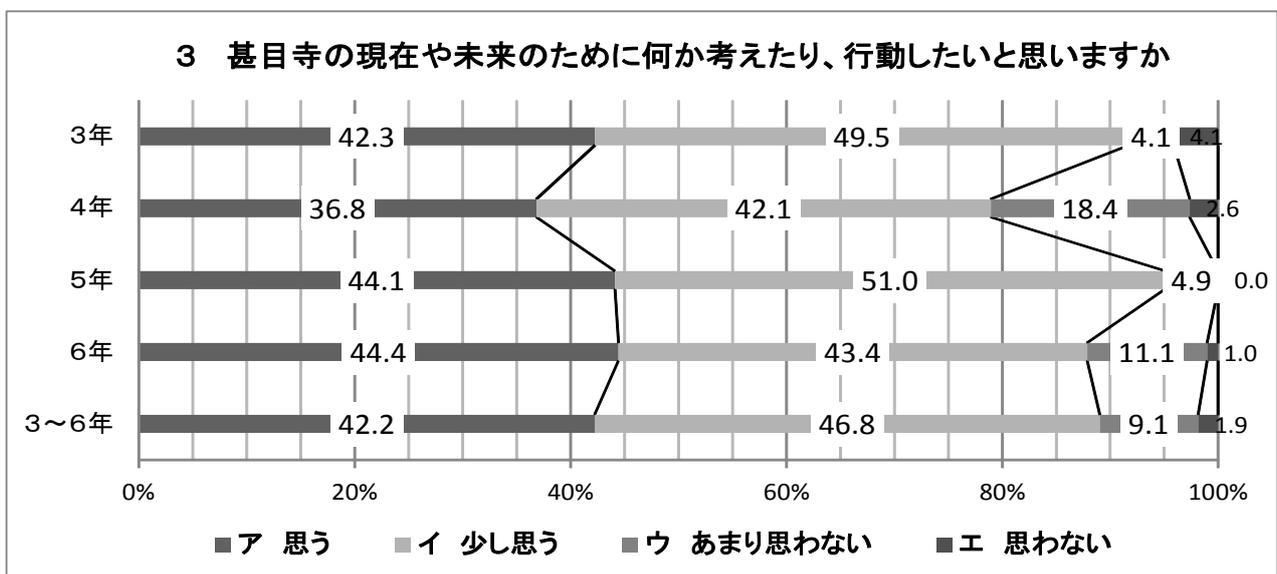
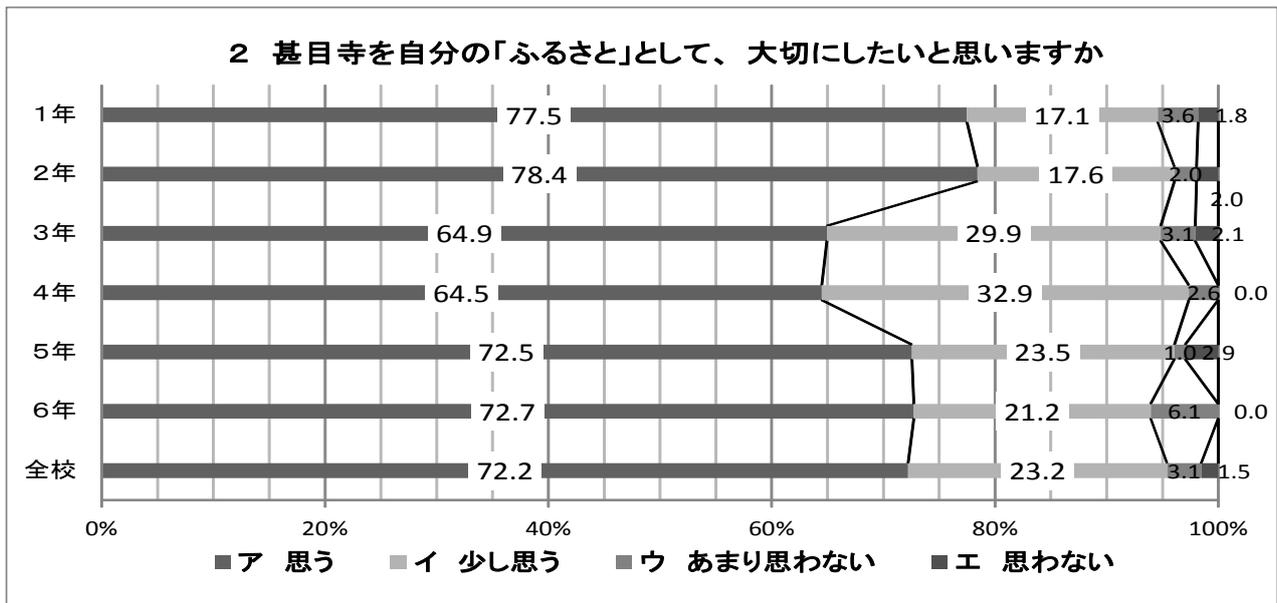
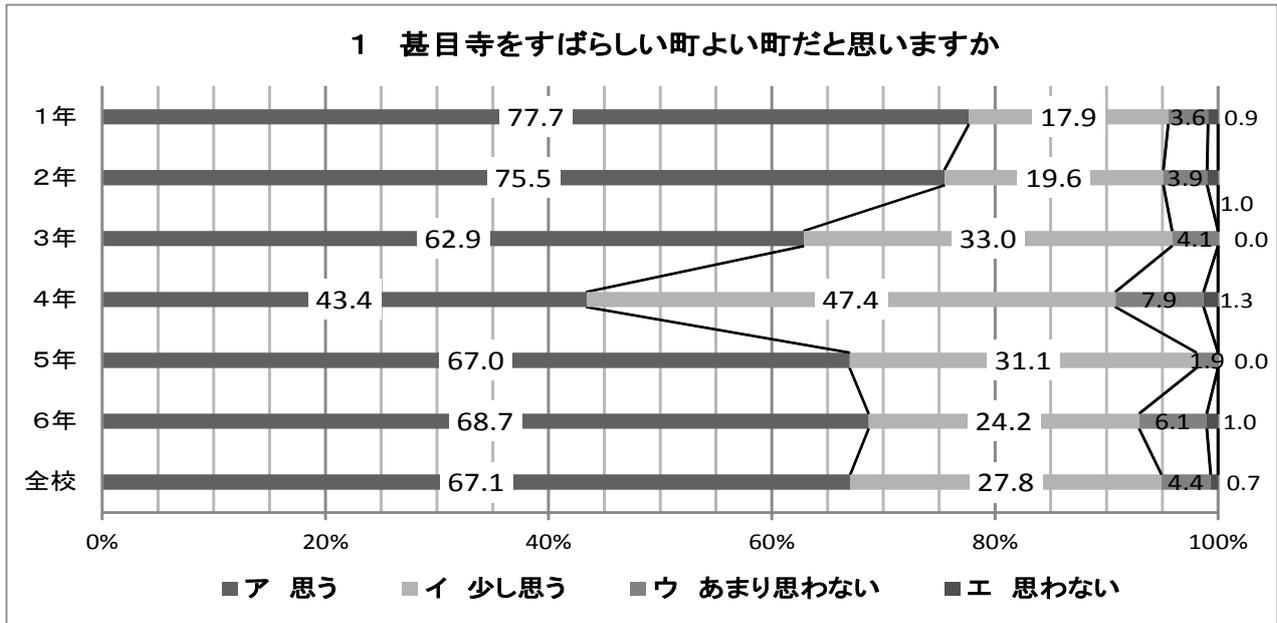


## 8 研究の成果と課題

### (1) ESD事後アンケートの結果



## (2) 考察

本年度のテーマ「人とのかかわり合いを大切に、思いを高める ESD 活動ーコミュニケーションスキルの活用を通してー」に基づいて、特に国語と学級活動において、ESD との連携を図った。国語では取材の仕方や発表の仕方などを学ぶ単元があるが、そこで培った技能を ESD で実践するような単元構成に組み直し、実践を行った。学級活動は、各時期の ESD に必要なソーシャルスキルトレーニングを行うことで、ESD 活動が円滑に進められるようにした。どちらも ESD とは別の目的で行われがちであったものを ESD と連携強化を図ったことで、さらなる活動の充実につなげた。

### ア 国語との連携を図った授業

- ・夏休みの取材に向けて国語の単元内においてインタビューの練習を行った。夏休みの取材では、「目を見る、うなずく、相手を理解して、共感する」など、国語の授業で確認したことに気を付けてインタビューを行った。(5年国語「きいて、きいて、きいてみよう」)
- ・総合学習発表会で分かりやすく発表するためにはどのような点に注意したらよいかを、国語の単元内において学習した。話す速さや強弱、間の取り方、目線、表情、資料の見せ方などについて多面的に分析していった。(4年国語「だれもが関わり合えるように」)
- ・総合的な学習の時間を使って、銀羊苑訪問のための交流会についての出し物を班で話し合う実践を行った。その際に、国語「グループごとに、どのようにせつめいするか話し合おう」の学習が活かされ、きちんと班での話し合いが行われた。(3年総合『人にやさしい町づくり』のために自分たちでできることをしよう)

### イ 学級活動との連携を図った授業

- ・1年生の ESD テーマは「みんななかよし」である。「みんな」の中には、ESD で重視している地域の人まで含まれるが、5月における指導は学級内の仲間づくりである。相手を傷つけずに自分の意思をいかに伝えるかについて、ブランコの交代場面の言葉がけについてロールプレイで学習した。(1年学級活動「なかよし」)
- ・2年生は ESD の活動全体を支える、子ども同士の好ましい人間関係作りについての実践を行った。学級活動といっても体育館でのドッジボール。ドッジボール中に飛び交う「ちくちくことば」に注目させ、反対の「ふわふわことば」でゲームをする楽しさを体感させた。(2年学級活動「ふわふわドッジボール」)

### ウ 認識の「高まり」を組み込んだ指導案

指導案の多くに、認識の高まり場面を設定した。また、認識を高めるための具体的な方法についても思考法という形で記述した。これは、昨年以降の継続研究であった。「甚小 ESD の話し合いに役立つ思考スキル・定義・展開例」が「授業の山場作り」を考える際に役に立った。

### エ シンキングツールの活用

シンキングツールを活用し始めて、これで3年経つ。甚目寺小の多くの実践で普通に活用されるようになった。さらに認識の高まり場面を考える際に、シンキングツールが活用しやすいことも実践が証明することとなった。今後も「思考の見える化」の大切なツールとして使っていきたい。

### オ ESD の事後アンケート結果

全体の傾向は、昨年と変わらない。また、昨年同様4年生において「甚目寺をすばらしい町よい町だと思いますか」における評価は、他学年に比べ低い傾向が見られた。甚目寺の自然や生活環境を学習する学年だけに評価が厳しいものになったと思われる。

アンケートの文言に関して、3つの質問とも「1年間の学習を通して」という言葉を文頭につけた方が限定されてよいのではという意見がある。今後検討していきたい。

### カ 課題とおわりに

平成30年度に甚目寺小は、事務協の発表を ESD で行う予定である。授業公開をし、多くの人に見てもらおう場が与えられた。これに向けて、来年度から2年かけて準備を行っていく。甚目寺小の今までの流れを継承しつつ、さらなる向上を目指して取り組むとしたら、その向上に必要な視点は何であろうか。原点に返って、子どもの目線に立って、誰もが授業に参加できるような、また参加したくなるような教材、教具の開発、教員の授業力向上などは必要な視点であろう。さらに最近注目されているユニバーサルデザインの視点に立った授業作りや教室環境作りについても考慮したい。いずれにしろ甚目寺小にとっては、さらなる飛躍のきっかけとなるのは間違いない。